



高橋 正浩 議員
(無会派)



一般質問

■少子化と人手不足について

受験生の減少により中学生の学習意欲に影響はないか伺う。

質 能登地区において、年々入試倍率が下がっており、定員割れの高校が圧倒的に多い状況で、中学校の学習目標は高校に合格することだけではないものの、重要な目標であることも事実であることもふまえ、行政としてできることは何か伺う。

答 明確な根拠となる検証結果は把握していないが、市内4中学校からの聞き取りによれば、出願倍率が低下したことによる学習意欲の低下は全体的には感じられないが、焦らずに自分のペースで学習している生徒もいるとのことである。

本市は各学校に対し、学ぶことの価値や重要性そのものを認識させることを目標に、日々の学習を進めるように指導してきている。自分を高めるために、今何ができるのかを意識させるとともに、変化の激しい社会に対応できる資質能力を持った児童・生徒を育成することを重点目標としている。

少子化だからできる強みとして、実際入学してからどんなふうなことができるのか、一人一人時間をかけて説明することによって、今どんな力が必要なのか、どういう力をつければいいのかという進路指導がきめ細かにできると考えている。

今後もし引き続き児童・生徒が学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶことで輝く未来を自ら切り開く七尾っ子を育成していきたいと考えている。



西川 英伸 議員
(市民クラブ)



パトリア

一般質問

■パトリアの管理体制の在り方について

質 七尾駅前にぎわい館パトリアについて、次の4点伺う。
①創生ななおにおける会計処理、経理処理について
②令和5年1月に創生ななおが発表した事業計画について
③災害時の備蓄について
④テナントや市民からの苦情について

答 ①毎年度の予算編成に当たり、指定管理料の算定の内容について、逐次、協議をしているところである。決算についても、毎年度、社外監査役から監査を受けていることに加え、令和4、5年度に受けた市の定期監査の際には、指摘や改善要請があり、市としても改善するよう指導したところである。個別案件については確認していないが、指導を通じて適正化が図られているものと考えている。

②令和5年1月にフォーラム七尾において、創生ななおが発表した事業計画について、改めて進捗を確認したところ、震災等の影響があり、事業の推進は困難であると判断し、今後も当該事業を行う予定はないと報告を受けている。別の手法で、七尾駅前にぎわい館やパトリア、まちなかのにぎわい創出を目指すとのことである。

③備蓄について、保存食の無償提供の申入れがあり、受け入れし施設内の倉庫に保管したと聞いている。なお、パトリアは津波避難ビルの指定はあるが、市として、防災拠点的な位置づけは行っていない。

④苦情も多いということについては、施設の管理、運営に関し、何か問題が生じた場合には、その対応策や再発防止策を含めて、その都度、市のほうに協議するよう、創生ななおには繰り返し指導しているところである。